

聴覚情報処理障害（APD）とは？

略称「APD」(Auditory Processing Disorder)

聴力に問題はなく音は聞こえていても、人の話し声を情報として認知するのが困難な状態のことです。

耳から入ってきた音の情報を脳で処理して、ことばとして理解する際に、なんらかの障害が生じる状態だと考えられています。

症状の例

下記の症状がある場合はAPDの疑いがあります。

- ・複数での会話が聞き取りづらい
- ・電話で相手が話している意味がわかりづらい
- ・聞き返しや聞き誤りが多い
- ・雑音があると聞き取りが難しい
- ・口頭で言われたことは忘れっぽい
- ・早口や小さな声は聞き取りにくい

APD を引き起こす背景要因

- ① 脳損傷
- ② 発達障害
- ③ 認知的な偏り（不注意・記憶力が弱い）
- ④ 心理的な問題

APDは社会的にも知られていない障害です。

また、専門知識を持った医師も少ないため、情報が少なく当事者も気づかないままになっている場合が多いのが現状です。

APDの主な対処法

- ・周囲の協力を得る
- ・聴覚トレーニングを行う
- ・カウンセリングを受ける

等ありますが、まずは専門知識を持った医師の診断を受けることをおすすめします。

「聴覚情報処理障害(APD)あおり当事者の会」はAPD 症状で悩みを抱える当事者が集まりつながる会です。

つながりを通して、

当事者それぞれが抱えている悩みを少しでも軽くし、
良い方向へ進むきっかけを作りたいと思い、

2022年3月設立しました。

東京都で2018年6月に初めてAPD当事者会が設立され、
後に全国各地に設立されています。

社会的にAPD という概念が広く知られることも
当事者にとっても大切なことと考えています。

活動内容

- ・当事者交流会の開催
- ・APDに関する情報を収集
- ・勉強会や講演会等の開催
- ・県外のAPD当事者会との交流、または連携事業の開催
- ・APDに関する情報の発信（啓発活動）
- ・相談、支援
- ・メディア等への協力